

平成30年

建設文教委員会

8月28日

豊明市議会

建設文教委員会会議録

平成30年8月28日

午前11時25分 開会

午前11時59分 閉会

1. 出席委員

委員長	鵜飼 貞雄	副委員長	近藤 善人
委員	後藤 学	委員	郷右近 修
委員	清水 義昭	委員	蟹井 智行
委員	近藤 千鶴		
議長	杉浦 光男		

2. 欠席委員

なし

3. 職務のため出席した議会事務局職員の職、氏名

議会事務局長	鈴木 美智雄	議事課長	近藤 恒明
議事課長補佐 兼議事担当係長	水野 美樹	庶務担当係長	花井 悟之

4. 説明のため出席した者の職、氏名

市長	小浮 正典	副市長	坪野 順司
教育長	伏屋 一幸	行政経営部長	藤井 和久
教育部長	小串 真美	行政経営部次長	岩瀬 雅哉
財政課長	伊藤 正弘	学校教育課長	樋口 進
学校支援室長	坂井 朋弘	財政課長補佐	萩野 昭久
学校教育課長補佐	後藤 明紀		

5. 傍聴議員

富永 秀一	近藤 ひろひで	宮本 英彦	ふじえ 真理子
早川 直彦	山盛 さちえ	月岡 修一	毛受 明宏
近藤 郁子	三浦 桂司	一色 美智子	

6. 傍聴者

なし

午前 11 時 25 分開会

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） ただいまより建設文教委員会を開催いたします。
会議に先立ちまして、市長より挨拶をお願いします。

小浮市長。

○市長（小浮正典君） 本会議を休憩しての委員会の開催、まことにありがとうございます。
す。

本建設文教委員会に付託されました案件は補正予算案 1 件でございます。慎重なる審査
をいただきましてお認めいただきますよう、よろしく願いいたします。

以上です。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） ありがとうございます。

続いて、議長より挨拶をお願いします。

議長。

○議長（杉浦光男議員） 児童生徒の幸せに直結する議案ですので、よろしく審議してく
ださい。

以上です。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） ありがとうございます。

これより会議を開きます。

ここでお諮りいたします。市長並びに本日の議事に直接関係のない職員は自席待機とい
たしたいが、御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） 御異議なしと認めます。よって、市長並びに本日の
議事に直接関係のない職員は退席願います。

なお、市長におかれましては、答弁を求める機会がある場合には出席をいただきますの
で、御承知おき願います。

（関係職員以外退席をなす）

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） 本日の傍聴につきましては、申し合わせに従い15名
以内とし、委員長において一般傍聴者の入室を許可します。

本日の議事につきましては、本委員会に付託されました案件につきまして、お手元に配
付いたしました議題に従い会議を進めます。

なお、当局におかれましては、反問権を行使される場合は意思表示を明確にされ、論点
を整理して反問されますようお願いいたします。

それでは、議案第68号、豊明市一般会計補正予算（第3号）についてを議題といたしま

す。

本案件につきまして、理事者より簡潔に説明を求めます。

樋口学校教育課長。

○学校教育課長（樋口 進君） それでは、議案第68号 平成30年度豊明市一般会計補正予算（第3号）について御説明申し上げます。

歳出より御説明いたしますので、6ページ、7ページをお開きください。

10款 教育費、2項 小学校費、1目 学校管理費の小学校施設維持管理事業でございます。

これは、夏季における熱中症対策として実施いたします小学校への空調機設置のために必要な受変電設備——キュービクルといいますけれども——更新及び配線設備の設計経費となるものでございます。

設計業務委託料を校舎等改修工事設計委託料として876万円増額計上させていただき、当初予算における同細節の現計予算残額500万円と合わせて1,376万円を事業規模上限として予定するものでございます。

本日議決をいただきましたら、受変電設備更新工事費と空調機の設置工事費につきましては、以降の補正予算について計上させていただくことを予定いたしまして、来年の夏までのエアコン稼働に向け、速やかに設計委託業務の執行を進めてまいりたいと思っております。

続きまして、歳入の説明をいたしますので、4ページ、5ページにお戻りください。

17款 繰入金、1項 基金繰入金、1目 財政調整基金繰入金の876万円は、このたびの歳出補正予算の一般財源となるものでございます。

以上で説明を終わります。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） 理事者の説明は終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑のある方は挙手を願います。

後藤委員。

○後藤 学委員 先ほどちょっと聞き漏らしましたのでお尋ねしたいんですけども、実験の結果、一定の効果があったということで、暑さ指数ですか、これが下がったということですけども、下がった値をちょっと教えてください。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） 答弁を願います。

樋口課長。

○学校教育課長（樋口 進君） まず、1時20分に測定をいたしましたところ、28.7度で

ございました。済みません、暑さ指数ということでよろしかったですね、28.7から、時間的経緯でお話しさせていただきます。1時35分には25.7、それから1時50分には24.3、2時5分からは23.5、2時20分には22.9、2時35分には22.6、2時50分に22.3、3時5分には22、3時20分には21.8度まで下がっております。

以上でございます。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） ほかにございませんか。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 1点だけお願いします。

図書室などに設置した空調機器の出力だとある意味過剰な部分もあるのかなということ、災害対策の観点から熱中症が起こらない程度の中身ということだったと思うんですが、その考え方について、学校で子どもたちの、特にことしの様子なんかを見てらっしゃる保健の教諭の方の御意見なんかは伺ったりして考慮したんでしょうか。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） 答弁願います。

伏屋教育長。

○教育長（伏屋一幸君） このことについて保健の先生には直接お聞きはしておりませんが、校長会の役員の先生と、杳掛小学校の校長先生の小崎先生に聞きました。ことしはやはり例年に比べて教室内の室温が二、三度高いというようなこともあって、相当大変だったですというようなお話でした。

今回我々が考えているエアコンの設置のこともお話をして、WBGTがさつき樋口課長が言ったように、このように下がるというようなことも申し上げたところ、かなりそれは効果があるんじゃないかと、学校の先生の体感として、そうしていただければありがたいというようなお話も聞きましたので、校長会さんの了解も得ておるといようなことで提案をさせていただいております。

以上です。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） ほかにございませんか。

清水委員。

○清水義昭委員 今回小学校だけになってますけども、小学校、中学校ありますけども、小学校だけに絞って上程したというのの理由をお願いします。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） 答弁を願います。

樋口課長。

○学校教育課長（樋口 進君） 小学校に絞ったということですがけれども、順番としてということになります。小学校低学年の子どもたちからということがありましたので、小学

校をまず先行すると。その様子も見させていただいた中で、これ、今回は設計の関係でございまして、実際に設置した状況も勘案して中学校のほうについても検討をさらに加えていかなきゃいけないというようなことがありましたので、今回2つに分けてという形にさせていただいております。

以上です。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） ほかにございませんか。

伏屋教育長。

○教育長（伏屋一幸君） ちょっと追加をお願いします。

今、課長が申し上げたのに加えますと、今回144台を納入するということですね。中学校は59台の予定をするということですので、一度にたくさん入るかどうかというそういった懸念もございまして。工期を考えると実際にはもう春休みとゴールデンウィークしかない。あとは授業に入ってしまうので、そういったことも考え合わせると確実に納品してもらえないといけないということがありましたので、本当は一緒にやるといいのかもしれませんが、そういったこともあって、小学校、低年齢の子どもたちから先という順番でやらさせていただくということに決めさせていただきました。

以上です。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） ほかにございませんか。

後藤委員。

○後藤 学委員 新聞情報なんかを見てますと、ほかの市町で小学校と中学校を分けてというようなのは余り見てなかったような気がするんですけども、例えば両方とも進めるという前提で進めていって、それでも例えば不落になってしまったとか、そういったときにはそれなりの対応をするというような、そういう検討はされなかったんでしょうか。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） 答弁願います。

樋口課長。

○学校教育課長（樋口 進君） 先ほども御答弁させていただきましたけれども、低学年からというようなことが前提にございまして、同時に進めるということは検討しておりませんでした。

以上です。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） ほかにございませんか。

近藤副委員長。

○近藤善人委員 ランニングコストのことなんですけども、1年間にかかる電気代とか維持にかかる費用というのは大体どれぐらいを想定しているのでしょうか。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） 答弁願います。

樋口課長。

○学校教育課長（樋口 進君） 電気料金のほうにつきましては、やはり入れるものによって多少変わりますけれども、想定としましては、小学校のほうで電気料金で275万円程度、中学校はその後になりますのでまた変わりますけれども、同じような計算にしますと113万円というようなことを見込んでおります。

あと、保守のほうでございますけれども、保守料金についてはまだ今のところ、どういったものに、要は機械が入る関係がありますので、保守料金についてはまだ算定はしておりません。

以上です。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） ほかにございませんか。

後藤委員。

○後藤 学委員 先ほど最上階などは非常に暑くなるということで、そういう場合には複数台設置するというようなこともあり得るといようなお話でしたけれども、最上階がどれだけ暑くなるかというのは、これからではちょっと実験が難しいかなと思うんですね。急いで来年の春につけるということになると。

そういう判断はどのようにされるのでしょうか。最上階の場合、それから、今回は子どもたちを入れて体温でどのくらいエアコンのきき目が落ちるかというようなことも実験ではやられてないわけですがけれども、どのくらいの容量のエアコンをつけたらいいのか、1台じゃなくて2台はどうしなければいけない、2台はどういう場合ならつけなきゃいけないかというような、そういう基準は今から考えようがないんじゃないかなと思うんですけど、これはどうするのでしょうか。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） 答弁願います。

小串教育部長。

○教育部長（小串真美君） おっしゃるとおりこの結果を見て最上階の教室の室温が想定しているよりも高い状態が続くということもあり得ると思いますので、今回は、今回設計費でお願いしているものの中に、最上階については複数台設置を見込んだようなことも設計の段階で考えさせていただければなと思っております。

それから、太陽光パネルが乗っているところは若干それが和らぐということで、実際に教室がどれくらいあるのかも、きょう議決いただきましたらすぐに検討に入りたいと思います。

終わります。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） ほかにございませんか。

後藤委員。

○後藤 学委員 最上階はそういうふうで複数つけるような方向ということかもしれないですけども、今回の実験で子どもたちが30人とか三十何人とか入っているところで実験してないんですよ。その有効性というのはどうやって判断するんですか。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） 答弁願います。

樋口課長。

○学校教育課長（樋口 進君） 人間が30人入るといような想定ですけども、一人頭大体120ワットぐらいの計算で加算するというふうに聞いておりますので、細かな算出は今回しておりませんが、14キロワットといような話をさせていただきましたけれども、その中にはそこが、その人数が含まれているということでございますので、計算上は大丈夫かなといようなことを考えております。

以上です。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） ほかにございませんか。

以上で質疑を終結し……。

（発言する者あり）

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） 後藤委員。

○後藤 学委員 先ほどの本会議の議論でもありましたけれども、エアコンをつけなきゃいけないんじゃないかというのはもうかなり議会では以前から要望があつて、議論もあつたわけなんですけれども、今回実験をやられたということですが、これまで議論のある中で、各学校の温度なりあるいは暑さ指数なり、そういったデータというのは、私、実は昨年質問をしたときにほかの市町に聞きましたら、そういったデータをとっていると、教室ごとにとっているといような話を聞きましたけれども、そういうことはやられたんでしょうか。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） 答弁願います。

小串部長。

○教育部長（小串真美君） 例年温度をはかってエアコン設置に向けてとい具体的な行動ではないんですけど、ことしがちょっと記録的な猛暑と言われている中で、7月、夏休みに入る前の最高気温で4.5度の差が発表されていまして。名古屋地方ですけど。

そういったことで、先ほども申し上げましたが、ことしはちょっと災害レベルといような表現が使われているとおり、私どもも子どもたちの健康と安全といこの2つのキーワードで基本方針も決めておりますので、そういった点で今回は実施していくといこと

を決めさせていただきました。

終わります。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） ほかにございませんか。

後藤委員。

○後藤 学委員 質問が変わりますけれども、先ほど1施設当たり400万ということの質問が出ました。私は1台、1教室当たり400万という基準なのかなというふうに思って、それはべらぼうな金額なので、国庫補助で考えていくのはなかなか難しいかなと思っておったんですけど、複数なら全体でというような答弁でしたので、ということは、1施設なら1校という、そういう判断でいいんでしょうか。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） 答弁願います。

小串部長。

○教育部長（小串真美君） そういう形にはならないのかなというふうに。今回追加で8月に調査があったときに、担当のほうと県のほうにいろいろ聞いてやっております。その中では、やはり国が求める設備というのは、普通の事務室のような空調環境ですので、考え方が我々とは少し異なっているということで、詳細な設計図とかそういったものが、今回は必要以上には、特にエアコン設置側は引く予定がありませんので、そうすると該当しないということで今は断念をしておりますが、この後、国がもし補正予算債で出してくれば当然、手は挙げていきますし、申請できるものは全て申請していきます。

終わります。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） ほかにございませんか。

後藤委員。

○後藤 学委員 家庭用でない場合で、ない場合というか、当初国庫補助の対象に想定されるようなそういうシステムでクーラーを設置した場合に、どれだけの費用がかかるのかというようなことの試算はされたのか、それからその場合、財源的にはどうなっていくのかというようなことをちょっと教えてください。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） 答弁願います。

小串部長。

○教育部長（小串真美君） 今回検討するに当たって同規模程度の団体の情報で約7億とか7億5,000という数字を伺いました。それを一財で一気に用意するというのは非常に苦しいということで、リースを検討している団体も聞いています。

国の補助金というのは、資産を形成するものに限っていますので、基本的にはリースだとかPFIのようなものが対象にならないということを伺っておりましたので、そういっ

た点も含めて今回の結論に至りました。

終わります。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） ほかにございませんか。

後藤委員。

○後藤 学委員 リースでなくて買い取りで、買い取りといたしますか、設置をするということにした場合、トータルでどのくらいの費用になって、それで補助なり起債なりあるいは一財の持ち出しなりというような金額が出てくると思うんですけど、そういう試算というのはされてないのでしょうか。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） 答弁願います。

小串部長。

○教育部長（小串真美君） 詳細な数値というか計算はしておりませんが、今回キュービクルの設計の予算をお願いしているんですが、キュービクル1つとっても、今回容量が6倍から7倍、よくよく考えると学校施設でこれほど電気を使う設備を入れた経緯がございませんので、キュービクルの設置場所の検討まで必要なところが今、あるんじゃないかというような状況ですので、そういった状況の中で、実際にどれくらいかかるかというのが詳細にはちょっと検討ができておりません。

先ほど申しあげました7億5,000というのは近隣の同規模程度の団体なんですけど、そういったところもこれまでの経験上の数字を積み上げた段階だというふうにお聞きしておりますので、なかなか詳細に出すのは難しいのかなというふうに思っております。

終わります。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） 後藤委員。

○後藤 学委員 済みません、答弁漏れなんですけど、財源内訳ですね。例えば7億なり7億5,000万なりかかったとすると、補助がどれだけで起債の充当率が何%で起債は幾らになって、一財の持ち出しはどのくらいになるのかというような、そういう試算というのはしてみえなかったんですか。ただ7億かかるからこれはやれない、やれないということで今までずっと来ておったということなんですか。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） 答弁願います。

小串部長。

○教育部長（小串真美君） 起債のほうは9割かなということは、9割程度じゃないかということは確認しております。当然それを受けて、これまでのさまざまな議論の中で今回は緊急対応ということと、子どもたちにも一定程度汗はかくんだということも含めてこの性能のエアコンに決めました。

終わります。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） ほかにございませんか。

後藤委員。

○後藤 学委員 9割の充当率ということになると、1年当たりの負担額、当初の一財の持ち出しもそれほど大きい金額ではないし、起債の償還額、年割りしていけば1年当たりの費用はそんなに何億もかかるわけではないし、トイレの改修が済んだ後には取り組むような方向でいたわけですので、それをただ二、三年前倒しするかしないかという問題だと思うんですよね。その辺の検討はされなかったんでしょうかね。

そういう財政負担に、多分年間数千万ということになるんだろうと思うんですけれども、数千万の支出が二、三年前倒しされるということで、国の補助を受けてエアコンの整備はできたと思うんですけれども、それができないというような判断で今回のこういった家庭用のエアコンを導入するということになったかと思うんですけれども、その辺のところの検討はどのようにされたんでしょうか。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） 答弁願います。

伏屋教育長。

○教育長（伏屋一幸君） その辺の検討も起債が9割というようなこともやりましたし、大体7億とか7億5,000万かかる、今回1億5,000万ぐらいをマックスで見えておりますので、5分の1から6分の1ぐらいのコストで済むと。起債が仮にあったとしても、それは最悪借金になります。国からの補助も3分の1とはいいいながらも、現在交付された団体を見ますと、3分の1に至っていないところが多いんですね。結局は予算の範囲内では国のほうも分配できないというようなことで、場合によっては4分の1になってしまうというようなことを考えると、補助金がなくても、起債を借りなくてもやれる方法でというようなことがまず1つありました。

あと、2025年問題とか、2040年当りに非常に財政的に苦しくなるという、そういったシミュレーションもあります。そのときに、仮に今、後藤議員がおっしゃったような7億とか8億ぐらいのものをまたそのときに更新しないといけないということも考えると、なかなかその負担というのは将来的にも大変じゃないかというようなことも考慮に入れて、さらに小串部長が何度も言うておりますが、熱中症対策としてやると。WBGTという数値を28以下にするということが目標であれば、ルームエアコンでも対応できるのではないかというようなこともありましたので、そういったことを総合的に考えて今回の結論を導き出したということでございます。

以上です。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） ほかにございませんか。

後藤委員。

○後藤 学委員 最初に熱中症対策でやるんだというようなお話がきょう本会議でもあったわけなんですけど、非常に私個人的にはちょっと違和感を覚えたんですけども、ほかの市町では子どもたちが快適な学習ができるような、そういう設備をつけようとしておるんですよね。豊明は熱中症さえ防げればいいんですかね。熱中症で救急車で運ばれたり保健室へ行かなきゃいけない生徒がふえれば、学びの環境といたしますか、快適に学べるというそういう環境をつくろうという発想が全くないように思えるんですけども。

近隣の学校では快適に子どもたちが学習しているのに、豊明では熱中症にならない程度のエアコンで、これから少なくともエアコンの耐用年数、10年とか15年とか、そういう状況で子どもたちは学習していくという、そういうことについての教育委員会としての問題意識というかそういうものはないんでしょうか。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） 答弁願います。

伏屋教育長。

○教育長（伏屋一幸君） もちろんそういったことも議論はいたしました、今回本当に一番重要なのは災害的な気候ということに対応するというの、それがもう一番の判断材料であったということは申し述べたいと思います。

もちろん快適な空間ができればそれは一番いいとは思いますが、それに引き換えるコストというのも非常にございます。ですので、繰り返しになりますけれども、後々の負担だとか今現在置かれている状況を総合的に勘案すると熱中症にならないというのは、それは環境が悪いのかということ、熱中症にならないというのは相当今の現環境からいくと、5度とか6度とか教室内の温度も下がるわけですし、決して悪い環境ではないと思うんですね。そういったことも考えて、どこが本当に落としどころなんだろうというようなことで考えていくと、このやり方がいいのではないかとということに決定をさせていただきます。

以上です。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） ほかにございませんか。

清水委員。

○清水義昭委員 先ほどの教育長の答弁をもう一回確認をさせてもらいたいんですけども、WBGTを28以下にするということによろしかったですか。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） 答弁願います。

伏屋教育長。

○教育長（伏屋一幸君） 環境省が示しております熱中症の指数が28を超える、それがWBG Tというんですけど、それをそれ以下にするということを目標にしているということです。

以上です。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） ほかにございませんか。

清水委員。

○清水義昭委員 再度確認ですけれども、やまびこ教室で実験をしたとき、これがさっき聞いた感じだと外気温が37度、午後1時20分の時点で37度、さっきお聞きした感じだと、その段階でWBG Tが28.7というように聞こえたんですが、それで間違いなかったでしょうか。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） 答弁願います。

小串部長。

○教育部長（小串真美君） 間違いございません。

終わります。

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） ほかにございませんか。

（進行の声あり）

○建設文教委員長（鶴飼貞雄議員） 以上で質疑を終結し、討論に入ります。

討論のある方は挙手を願います。

後藤委員。

○後藤 学委員 どういう討論をしたらいいのかちょっと迷いますけれども、実験をされたということですから、たった1日の実験、子どもたち……。

（発言する者あり）

○後藤 学委員 2日ですか。いずれにしても非常に限られた実験で沓掛小学校でやられたということですから、沓掛というのは平均気温もほかの市街地よりも低いですし、子どもたちも部屋には入っていなかった、最上階はやっていない、そういうようなことを考えると、本当に家庭用のエアコンで、快適にやっぱり勉強ができる、学習ができる、そういう環境は整えなきゃいけないと思うんですけども、それができるかどうかということがいまいち確信が持てないなということをお話を聞いていて感じました。

他市町と教育環境の面で豊明市が結果的に大きく立ちおくれるようなことにならなければいいがな、そんなことを思っておりますので、大変迷うわけですが。

それから、もう一点、小学校と中学校を2年間に分けるということ、これも先ほど私が申し上げましたように、分ける理由が業者が確保できないから、かもしれないからという

ことでしたので、そういうことであれば小中学校両方を対象にして準備は進めていって、どうしてもやむを得ない場合だけ繰り越すなりというような、そういう考え方もあったんじゃないかなと思うんですけども、そういう点でもどうかなという気持ちがいたします。

非常に判断に迷うわけですが、あえて反対とまでは言わないということで、そういった問題に対してこれからも十分精査していただいて取り組んでいただくように求めて、反対まではしないという意味での賛成討論といたします。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） ほかにございませんか。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 議案68号、一般会計補正予算案（3号）に賛成です。

先ほど質問させていただいた中身で、正しい言葉じゃなくて済みませんでした。養護教諭の方ですね。子どもの健康状況なんかをつぶさに見ていらっしゃる方の御意見がせめて全部の学校の様子を聞かれて、なおかつそれが参考にされていればなというふうに思ったところはあったので、ちょっと残念なところがありますが、その他の意見についてもいろいろあるんですけども、本会議の討論なり、あとまた一般質問でも触れようと思いますので、まずここでは賛成の立場です。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） ほかにございませんか。

蟹井委員。

○蟹井智行委員 議案第68号に、賛成の立場で討論いたします。

本会議場の一般質問でもしますので、簡単にお話しします。7月に学校の先生方に会ったときには、もう本当に暑くて授業をやっていてぶっ倒れそうだと先生たちは言っていました。会った先生たちはみんな口をそろえて、トイレは後回しでいいから、蟹井先生、先にエアコンを何とかつけてよって7月には言ってみえました。

そして、8月に新聞報道で豊明市がいち早くエアコンをつけるという記事を目にされて、8月に会った先生たちは本当に喜んでいました。ルームエアコンということでも先生たちは、この豊明市の英断に大変感謝をしています。そういう意味で、少しでも室温が下がるということがありますので、賛成としたいと思います。

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） ほかにございませんか。

（進行の声あり）

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） 以上で討論を終結し、採決に入ります。

議案第68号は原案のとおり決することに御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○建設文教委員長（鵜飼貞雄議員） 御異議なしと認めます。よって、議案第68号は全会

一致により、原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で、本委員会に付託されました案件の審査は終了いたしました。

お諮りいたします。委員会報告書については私に一任願えますか。

(異議なしの声あり)

○建設文教委員長(鶴飼貞雄議員) ありがとうございます。委員会報告書については例に従い提出をさせていただきます。

慎重な御審査、御苦労さまでした。これにて建設文教委員会を閉会いたします。

午前11時59分閉会